

# 聖愛

十一月号

原町聖愛保育園

二〇〇六年 十一月一日 発行

秋は、沢山の収穫物があり、子どもたちもまた、実りを実感できる季節でもあります。その恵みを頂くためには、自分の回りだけでなく、山や川、海なども大切にしていかなければならないことも伝え続けて行きます。また、いつも神様や多くの人々に支えられていることに、感謝して過ごして行きたいものです。

## 親子の会話

保育の現場から (133)

朝、お母さんと登園して来た子どもは離れ際に、お母さんから「がんばってね」と言われました。また、お迎えに来たお母さんが、子どもの顔を見ながら「ごめんね」と声をかけました。語りかける方は、その言葉に特別な意味も理由もないことだと思おうのですが、このように言われた子どもは、それに対して何と答えればいいのかでしよ。 (それとも、はじめから応答は不要?) 時々次のような会話を耳にします。命令口調の子どもの言葉に、大人が退いたり従ったり、大人と子どもが逆転している会話。子どもも親もお互いに顔も見ず、一方的に言いたいことを言う会話。子どもが話しかけるが、有無を言わせず「いいから早く!」と遮断してしまう会話。「うんうん」と相槌を打つが、聞き流している会話等等。どれか思い当たる会話はありますか。

日暮れが早くなったところのある日のこと、仕事を終えて急いで迎えに来たお母さんに、子どもが、「おそい!」と強い口調で言い放ちました。そう言われたお母さんは、理由を説明もせずに「ごめんね」と一言言いました。しかし、本当に謝らなければならないことだったのでしょうか。

「ごめん」と謝ることも、「ごめん」の一言で済ませるのも適切ではありません。遅れた事情やこれからのこと(お家に帰ろう・一緒に買い物に行こう...)を話して、子どもの待つていた気持ちを聞いてやったり、お母さんも思いや考えを伝えたりして、言葉と気持ちのやり取りが必要ではないでしょうか。


年齢が大きくなると、何を聞いても「別に」の返答で、会話が続かないという話を聞きます。素直なままにおしゃべりをする幼児期に、会話のやり取りの楽しさを子どもに感じさせることを、大人はもっと意識しましょう。

話を聞いてもらう喜びを知った子どもは、自分の心のうちを話し、相手の話もよく聞くようになります。会話を楽しんで下さい。 園長 遠藤美保子





## 11月の保育目標 主題 「ありがとう」

<暗唱聖句> わたしは、主が与えられた地の実りの初物を、  
今、ここに持ってまいりました。申命記 26章10節

年齢	保育目標	保育内容	保育者の配慮
てんし 0歳児	身近な周りの自然の中で心地よく過ごす。	・園庭散策や散歩 ・まてまて遊び ・葉や木の実を拾って遊ぶ ・お家遊び(出る、入る)	・自然の中で様々な物に気付いて、触れる経験が出来るようにする。 ・動きをより促すことが出来るように、見つけたものを目の前に置いて誘いかけたり、保育者が言葉に代えて表現したりし、関心が深まるようにする。
つぼみ 1歳児	様々な遊びの中で友達との関わりを楽しむ。 	・自然に触れて(歩く) 葉っぱや木の実で遊ぶ ・簡単なルールのある遊び 鬼ごっこやかくれんぼなど ・指先を使って ちぎる、丸める、なぐり描き	・葉や草、木の実の匂いや音など沢山触れて楽しみ、見立て遊びやつもり遊びに発展できるように、言葉や物、動作などを補う。 ・保育者が楽しく遊んでみせて、その遊び方を知らせたり、友達への関わり方を知らせるようにする。 ・保育者自身が、自然のたくさん恵みや収穫を喜び、祈りや賛美を持って感謝する。
はな 2歳児	・簡単なルールを知り、保育者、友達と一緒に守って遊ぶ。 ・実りを喜び神様に感謝する。	・ルールのある遊び (かくれんぼ、あぶくたつた) ・散歩(木の実、木の葉集め) ・クレヨン、はさみを使って ・音楽に合わせて体を動かす	・ルールのある遊びに誘い、共通した遊びを集団でできるように保育者が加わり、遊び方を伝えたり、面白さを感じられるようにする。 ・ハサミやのり、クレヨンを提供し、使い方を知らせ、やってみようという思いを引き出せるようにする。
フアミリー 3歳児	・神様の恵みに感謝する。 ・様々な年齢の友達とのかわりを楽しむ。	(室内) ・ハサミやのり等、指先を使っての活動(3歳)※2 ・プレゼント作り 感謝訪問、クリスマスなど(3・4・5歳)	・ルールを理解し集団で行うことの楽しさを、感じる事が出来るようにする。※1 ・細かい作業に気持ちを向けて取り組めるように、声掛けや誘い掛けをする。※2
4歳児	・自分達で目当てを持ち友達からの刺激を受けながら、色々な遊びに挑戦し少しずつ満足感を味わう。	・マフラー作り(4歳)※3 ・染色(5歳) ・鎖編み(5歳)	・遊びの中で自分の力を発揮し、考えたり工夫している所を認め、自信を持たせて、更に挑戦する意欲を育てる。※4 ・自分なりの挑戦を続け、放棄してしまうことなく課題を細分化して、取り組めるよう状況に応じてアドバイスする。※3
5歳児	・友達と話し合っ遊びを深め、その中でルールを作り出して楽しむ。	(戸外) ・ルールのあるゲーム遊び(3歳)※1 ・運動会での遊び(3・4・5歳)※4	・運動会の余韻を味わえるよう道具を提供したり機会をもうけたりしながら、遊びを自分達だけで展開していけるよう働きかける。※4 ・自分の思ったことを相手に伝えられるよう促し「相手が話をしているときは聞く」等の姿勢も指導する。 ・感謝の気持ちを祈りや言葉で、伝えられるように導く。

◎ 11月の予定◎

日付	園の行事	職員の手配
1(水)	ポップコーン(クラブ活動)	県保育協議会相双支部 保育士部会
2(木)	小人さんの音楽会	職員会議
5(日)	自然教室(中山先生)	
6(月)		年長・年少会議 保護者会役員会 PM7:00~
7(火)	総合避難訓練	聖書研究めぐみの会
8(水)	子育てサークル(ブーさんG)	マネージャー会議
9(木)	県指導監査	育児支援
10(金)	しゃりん梅訪問	キリスト教保連盟研修会
14(火)	合同礼拝	聖書研究タラントの会 各クラスバザー話し合い PM7:00~
15(水)	子育てサークル(レインボーG)	ケース会議 原町区子育て支援連絡会 研修会
16(木)	収穫感謝祭	
17(金)		構造化会議
20(月)	防犯・通報訓練	
21(火)	感謝訪問	
22(水)	子育てサークル(ブーさんG)	給食会議
25(土)	バザー	
27(月)	弁当の日	
28(火)	しゃりん梅訪問	
29(水)	ポップコーン(クラブ活動)	
30(木)	小人さんの音楽会	

《せいあいまつり》 11月25日(土) 11:00~13:30

当園のバザーも今年で14年目。これを機会に名称を決め、保護者の方々や地域の方々により親しまれ、交流を深める広場となることを願い、『せいあいまつり』と決まりました。

目的：保育園の子ども、保護者や地域の方と交流を深める。  
フードバザーは「カフェテリア形式」で行います。また、フリーマーケット風に、出店を希望する方々(保護者)を募ります。詳細については、後日詳しくお知らせいたします。

※ 各クラス保護者の話し合い  
11月14日(火)pm7:00~ 各保育室で行います。  
全保護者の方々のご出席をお願い致します。



《感謝訪問》 11月21日(火)

日頃お世話になっている身近に働く人を通して、働くことの尊さや社会の人々の様々な関わりを知ります。ファミリークラスの子どもたちが、川の生き物をモチーフに花瓶に仕上げ、お花を添えて、感謝の気持ちを表します。

つき組・平田小児科医院、原町消防署、板倉歯科医院  
森林管理署原町森林事務所  
ほし組・原町第二小学校、東北電力  
なみ組・しゃりん梅、原町自動車教習所



◎午睡用布団類の持ち帰りは、10日(金)・24日(金)です。  
寒くなりましたので、薄手のものを使用している方は、冬物と交換して下さい。

◎運動会の写真が玄関靴箱の上に置いてあります。  
注文なさる方は、4日までに枚数を確認の上、お金を添えて担任まで提出して下さい。

《引渡し訓練を終えて》大地震発生を想定して

消防士からのアドバイス

- ・保育園周辺では、ブロック塀、家屋の倒壊が多いのが予想され、周辺道路は通れなくなる。
- ・大地震が起こった際は、安全な場所を探して別の場所へ動きたいですが、余震がすぐに来ることがあるので、様子を見ながら避難する。
- ・家庭でも、家族の集合場所を決めておくことよ。公園などではなく、小学校など避難場所に指定されている場所に避難するのがよい。

今後、以上のことを踏まえて、避難ルートの再検討をします。また、大災害時には、二見町自主防災組織の方々のご協力をいただき、案内の表示や誘導などの手助けをしていただきます。

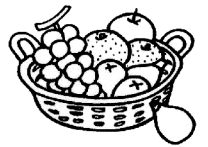
7日の総合避難訓練は、二見町自主防災組織の方々と一緒に避難訓練を行い、その後、消防士さんより消火器の取り扱いの説明を聞き、消火の練習を行います。

《収穫感謝祭》11月16日(木)

果物や野菜の収穫が嬉しい時期です。神様からのたくさんの恵みに感謝します。当日は野菜や果物を持ち寄り、礼拝した後、近所の一人暮らしのお年寄りの方々に届けて、喜びを分かち合います。

ご家庭で収穫した物、または、お手持ちの野菜や果物がありましたら、どちらか一品を、前日か当日の朝に持たせて下さい。ご協力をよろしくお願いいたします。

- ・礼拝 → 9:30~
- ・感謝祭 → 野菜や果物の紹介・ゲーム
- ・ご近所訪問 → 感謝と喜びを共にする



\*収穫感謝祭の由来\*

17世紀初め、本国イギリスで激しい迫害を受けたピューリタン(清教徒)の人々は、オランダに逃れ、そして信仰の自由を求めながら最後に、少数の英国人と先住民のインディアンしか住んでいないアメリカ新大陸に移ろうとしました。

1620年9月16日、老朽船メイフラワー号に乗って大西洋を渡ったのですが、3ヶ月かかりマサチューセッツ州プリマスに上陸しますが、厳寒と飢えのため、乗員していた半分以上の人が死にました。

春になり、近くに住むインディアンたちは親切にも種を分けてくれ、農耕や狩猟の仕方を教えてくれました。秋になって、冬を越すのに十分な収穫を得ることが出来たので、彼らはインディアンの友だちを招いて感謝の礼拝を捧げ、食事を共にしました。

1863年、リンカーン大統領は、このことを記念して、11月第四木曜日を国の祝日としたのが始まりです。

《「国見山」を一緒に歩きましょう》11月5日(日)  
保護者会主催

散歩に出かけると、赤や黄色などの葉を見つけては、大喜びし、葉の匂いをかいでいる子どもたち。



今回も、野あそびのプロ  
集団「ろぜっとわーくす」の中山康夫先生を迎えて山登りを計画しています。色とりどりの紅葉を見て楽しみ、草の匂いや鳥の声を聞きながら、親子でいい汗をかいて歩いてみませんか?

歩くという行為は

- ・精神を健康に保つのによく、思考にリズムや弾みを与える。
- ・歩きながら語るよさは、会話に一定のテンポが生まれやすい。
- ・長い距離を粘り強く歩くことは、子どもの心身の発育にとって効果的である。長く歩く経験が物事に対する粘り強さを育てる。(歩くことは、運動能力以上に粘り強く意思の力と深く関係している。)

参考著者 「身体を取り戻す」 斉藤 孝